

○外来生物の科学的研究の必要性（情報提供のお願い）について

屋久島町

近年、屋久島における侵入外来生物等による生活環境と農業被害及び自然生態系等への影響が非常に大きくなることが懸念されている。

これらの外来生物の発生は著しく増加しており、その生息地の範囲が拡大傾向にあるため、防除対策を講じているが、今後外来生物の密度を管理することを含めた対策が課題になっている。

屋久島の外来生物の根絶または効率的駆除のための生態観察や、薬剤散布等による環境影響等の科学的検証を含めた研究が必要であると考えます。

このため、大学・研究所等の情報提供をお願いしたい。

ヤンバルトサカヤスデ・オキナワイチモンジハムシ・シロノセンダングサの発生状況と対策

(1) ヤンバルトサカヤスデ

ヤンバルトサカヤスデの発生状況（24 集落中 17 集落に発生）と生活環境における不快害虫防除対策について、今年度の発生傾向は、従来夏季（6 月～8 月）及び秋季（10 月～12 月）に住居周辺での発生が確認されてきたが、今年度は春季（4 月～5 月）に幼虫が大量に発生し、これまで発生が少なかった集落（春牧、高平、麦生）において大量発生するなど、新たな発生状況が見られた。

要因として、天候（少雨）やこれまでの防除効果（集落の協力を得て広域的な散布の実施により大量駆除）等もあり、ヤスデの自然的発生密度の減少や生息域の移動等が考えられる。

防除対策は、住民からの報告を受けて、薬剤の補助（無償配布）と委託業者、町職員が積極的に各集落を巡回・調査し、発生を確認した後、住民の了解を得て委託業者と連携して薬剤散布を実施している。

また、屋久島のこれまでの発生地区は、特に原、尾之間、平内、湯泊の 4 地区の発生量が多い状況にあり、交尾期である 10 月から 11 月・12 月が成虫の集団移動時期にあり、1 回に 150 個から 350 個程度を産卵するといわれている。

ヤンバルトサカヤスデは、昭和 31 年に台湾で報告されたのが初めてとされている。その後、日本では、昭和 58 年に沖縄県で確認されたのを皮切りに、平成 3 年に徳之島、平成 4 年に奄美大島、平成 11 年に鹿児島県本土、平成 14 年に屋久島に生息が確認されている。また、全国的には同時期に静岡県駿河に発生が確認されている。

また、人為的な侵入生物種であることから、繁殖力が非常に強く一度発生してしまうと、完全な駆除が不可能なのが現状である。蔓延拡大の要因は、生息地域から樹木等を移植する際、土やたい肥などとともに、卵や幼虫が人為的に運ばれることがもっとも大きな要因といわれている。ヤスデの好む環境は、日光が射さない場所、湿度が高い場所、落ち葉などのエサが多い場所であるため、このような場所を居住区域から除外する環境整備が、ヤスデの抑制対策の基本となる。

なお、ヤスデ防除対策については、鹿児島県環境林務部所管対策課の情報を取り入れながら、防除を実施しているが、これまで県下のヤスデ対策の実態調査については、県の衛生研究所が平成 6 年からヤスデ蔓延防止対策検討会の初会合を機に、奄美大島から本土への侵入を防止するため、関係機関と市町村と連携して、ヤスデ対策の先進県として知見がある沖縄県衛生研究所からヤスデの生態、駆除方法等について情報収集、調査研究を行ってきている。

また、県衛生研究所、サンケイ化学株式会社を中心となり、防除剤開発試験を実施して、開発した薬剤のコイレット、ミリペーダ等の薬剤の環境中での影響調査、安全性について検証がされている。現在の鹿児島県内の発生地区は、奄美群島全域、北部地域は出水市、薩摩半島は南九州市、みなみ薩摩市、鹿児島市、近隣市町村等に発生している。

(2) オキナワイチモンジハムシ

オキナワイチモンジハムシの今年度の発生量は、昨年度と比較して同等程度であった。しかし、個体数を正確に把握し比較することは難しく、駆除依頼件数や駆除時の感覚的な比較によるもので、これまで被害を受けてない地区での駆除を実施したことから、生息範囲はさらに拡大しているといえる。

このような状況となった要因は、気温や風雨等の天候が影響しているのではないかと考えられているが、生態等も含めてははっきりとわかっていないのが現状である。

オキナワイチモンジハムシは、ガジュマルやアコウの若葉を好み、幼虫・成虫とも食害により樹木を枯らしてしまうため、現在、定期的に巡回し薬剤散布による駆除を実施している。使用薬剤はオルトラン水和剤、トレボン乳剤を使い分けている。また、地権者の了解が得られた場合は枝葉の伐採等を行い、オキナワイチモンジハムシの活動時期にエサとなる葉などを極力少なくし、繁殖しないよう試みている。今後の検討課題として、薬剤散布による随時駆除以外の方法を検討する必要がある。

(3) シロノセンダングサ

シロノセンダングサは、最近、県道を中心に町道、農道等の道路脇に繁殖が著しく目立つようになっている。キク科の1年草で、別名シロバナセンダングサともコシロノセンダングサの変種ともいわれている。

県の自然保護課によれば、外来生物法に基づいて環境省国立環境研究所が侵入生物データベースの要注意外来生物として指定している植物である。(なお、平成27年3月26日をもって、生態系被害防止外来種という新たなリストに制度変更があったとの情報がある。)

要注意外来生物とは、被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物である。要注意外来生物に指定している理由としては、この植物が農林水産業の被害や生態系に対する影響が大きなものがあるということのようである。

また、屋久島の県道脇にこの植物と混在している「オオキンケイギク」は地元で特攻花といわれており、シロノセンダングサより生態系に重大な影響をおよぼすおそれがある植物として、「特定外来生物」に指定され、栽培、運搬、販売、野外に放つことなどが禁止されている。

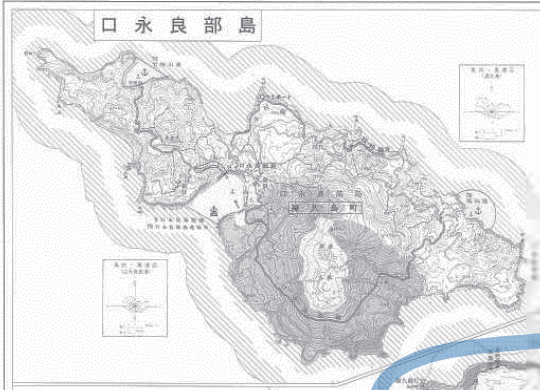
県との情報交換のなかでは、環境省国立環境研究所の侵入生物データベースに、屋久島は全国の地域分布状況に入っていないとの報告があり、環境省とも屋久島の現在の状況について情報交換を行っている。

また、シロノセンダングサ及びオオキンケイギクの繁殖が著しい県道の除去対策は、県屋久島事務所に協力を求め、県道一周と白谷線、ヤクスギランド線を4工区に分けて花期のうちに除草作業を実施している。また、町道等については、建設課が除去対策を実施している。

今後、屋久島で繁殖拡大させないための対策等について、引き続き連携していきたい。さらに、

農業への影響については、農林水産課が県と情報交換したうえで農家への除草作業等の時期について詳しく広報、啓発を行うことにしている。

屋久島における侵入外来生物の発生状況



道路表		漁港表	
主要地方道	第一種漁港		
211 上屋久島線 18.16km	37 志戸子漁港		
22 上屋久島線 18.16km	38 小瀬田漁港		
	39 吉田漁港		
	40 原漁港		
	41 松山漁港		
	42 栗生漁港		
592 屋久島公園安房線 18.47km	43 第四種漁港		
593 安房線 18.47km	44 第一種漁港		
594 屋久島線 18.47km	45 第二種漁港		
	46 第三種漁港		
	47 第四種漁港		
	48 第五種漁港		
	49 第六種漁港		
	50 第七種漁港		
	51 第八種漁港		
	52 第九種漁港		
	53 第十種漁港		
	54 第十一種漁港		
	55 第十二種漁港		
	56 第十三種漁港		
	57 第十四種漁港		
	58 第十五種漁港		
	59 第十六種漁港		
	60 第十七種漁港		
	61 第十八種漁港		
	62 第十九種漁港		
	63 第二十種漁港		
	64 第二十一種漁港		
	65 第二十二種漁港		
	66 第二十三種漁港		
	67 第二十四種漁港		
	68 第二十五種漁港		
	69 第二十六種漁港		
	70 第二十七種漁港		
	71 第二十八種漁港		
	72 第二十九種漁港		
	73 第三十種漁港		
	74 第三十一種漁港		
	75 第三十二種漁港		
	76 第三十三種漁港		
	77 第三十四種漁港		
	78 第三十五種漁港		
	79 第三十六種漁港		
	80 第三十七種漁港		
	81 第三十八種漁港		
	82 第三十九種漁港		
	83 第四十種漁港		
	84 第四十一種漁港		
	85 第四十二種漁港		
	86 第四十三種漁港		
	87 第四十四種漁港		
	88 第四十五種漁港		
	89 第四十六種漁港		
	90 第四十七種漁港		
	91 第四十八種漁港		
	92 第四十九種漁港		
	93 第五十種漁港		
	94 第五十一種漁港		
	95 第五十二種漁港		
	96 第五十三種漁港		
	97 第五十四種漁港		
	98 第五十五種漁港		
	99 第五十六種漁港		
	100 第五十七種漁港		
	101 第五十八種漁港		
	102 第五十九種漁港		
	103 第六十種漁港		
	104 第六十一種漁港		
	105 第六十二種漁港		
	106 第六十三種漁港		
	107 第六十四種漁港		
	108 第六十五種漁港		
	109 第六十六種漁港		
	110 第六十七種漁港		
	111 第六十八種漁港		
	112 第六十九種漁港		
	113 第七十種漁港		
	114 第七十一種漁港		
	115 第七十二種漁港		
	116 第七十三種漁港		
	117 第七十四種漁港		
	118 第七十五種漁港		
	119 第七十六種漁港		
	120 第七十七種漁港		
	121 第七十八種漁港		
	122 第七十九種漁港		
	123 第八十種漁港		
	124 第八十一種漁港		
	125 第八十二種漁港		
	126 第八十三種漁港		
	127 第八十四種漁港		
	128 第八十五種漁港		
	129 第八十六種漁港		
	130 第八十七種漁港		
	131 第八十八種漁港		
	132 第八十九種漁港		
	133 第九十種漁港		
	134 第九十一種漁港		
	135 第九十二種漁港		
	136 第九十三種漁港		
	137 第九十四種漁港		
	138 第九十五種漁港		
	139 第九十六種漁港		
	140 第九十七種漁港		
	141 第九十八種漁港		
	142 第九十九種漁港		
	143 第一百種漁港		
	144 第一百零一種漁港		
	145 第一百零二種漁港		
	146 第一百零三種漁港		
	147 第一百零四種漁港		
	148 第一百零五種漁港		
	149 第一百零六種漁港		
	150 第一百零七種漁港		
	151 第一百零八種漁港		
	152 第一百零九種漁港		
	153 第一百一十種漁港		
	154 第一百一十一種漁港		
	155 第一百一十二種漁港		
	156 第一百一十三種漁港		
	157 第一百一十四種漁港		
	158 第一百一十五種漁港		
	159 第一百一十六種漁港		
	160 第一百一十七種漁港		
	161 第一百一十八種漁港		
	162 第一百一十九種漁港		
	163 第一百二十種漁港		
	164 第一百零一種漁港		
	165 第一百零二種漁港		
	166 第一百零三種漁港		
	167 第一百零四種漁港		
	168 第一百零五種漁港		
	169 第一百零六種漁港		
	170 第一百零七種漁港		
	171 第一百零八種漁港		
	172 第一百零九種漁港		
	173 第一百一十種漁港		
	174 第一百一十一種漁港		
	175 第一百一十二種漁港		
	176 第一百一十三種漁港		
	177 第一百一十四種漁港		
	178 第一百一十五種漁港		
	179 第一百一十六種漁港		
	180 第一百一十七種漁港		
	181 第一百一十八種漁港		
	182 第一百一十九種漁港		
	183 第一百二十種漁港		
	184 第一百零一種漁港		
	185 第一百零二種漁港		
	186 第一百零三種漁港		
	187 第一百零四種漁港		
	188 第一百零五種漁港		
	189 第一百零六種漁港		
	190 第一百零七種漁港		
	191 第一百零八種漁港		
	192 第一百零九種漁港		
	193 第一百一十種漁港		
	194 第一百一十一種漁港		
	195 第一百一十二種漁港		
	196 第一百一十三種漁港		
	197 第一百一十四種漁港		
	198 第一百一十五種漁港		
	199 第一百一十六種漁港		
	200 第一百一十七種漁港		



凡 例

- : ヤンバルトサカヤスデ発生地
- : オキナワイチモンジハムシ発生地
- : シロノセンダングサ発生地

資料5別紙3 別添資料

資料5別紙3 別添資料